

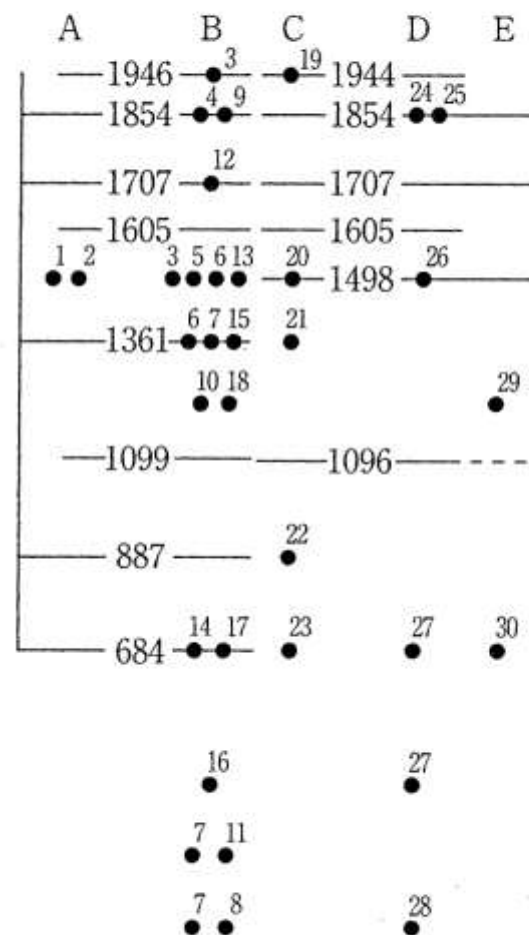
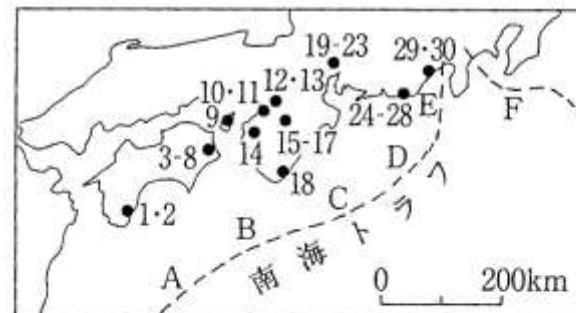
南海トラフから発生した 巨大地震の痕跡

産業技術総合研究所 寒川 旭
(南海トラフの巨大地震モデル検討会:2011年11月24日)

西暦で示したのは史料から求めた地震の発生年。数字で示したのは遺跡で見つかった。地震痕跡で、上の図の●は遺跡の位置、下の図の●は地震痕跡の年代を示す。

- 1 アゾノ、2 船戸、3 宮ノ前、
 4 神宅、5 古城、6 中島田、
 7 黒谷川宮ノ前、8 黒谷川郡頭、
 9 志筑廃寺、10 石津太神社、
 11 下田、12 池島・福万寺、
 13 瓜生堂、14 川辺、
 15 カヅマヤマ古墳 16 赤土山古墳、
 17 酒船石、18 川関、19 東畑廃寺、
 20 尾張国府跡、21 門間沼、
 22 地藏越、23 田所、
 24 御殿二之宮、25 袋井宿、
 26 元島、27 坂尻、28 鶴松、
 29 上土、30 川合

(1～30は遺跡名)



南海トラフの地震年表 (寒川、2011より)

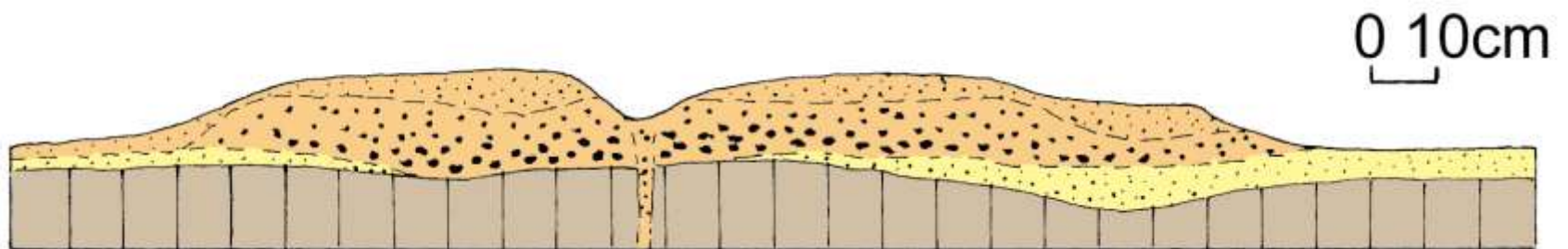
南海地震

東海地震

東南海地震 東海地震

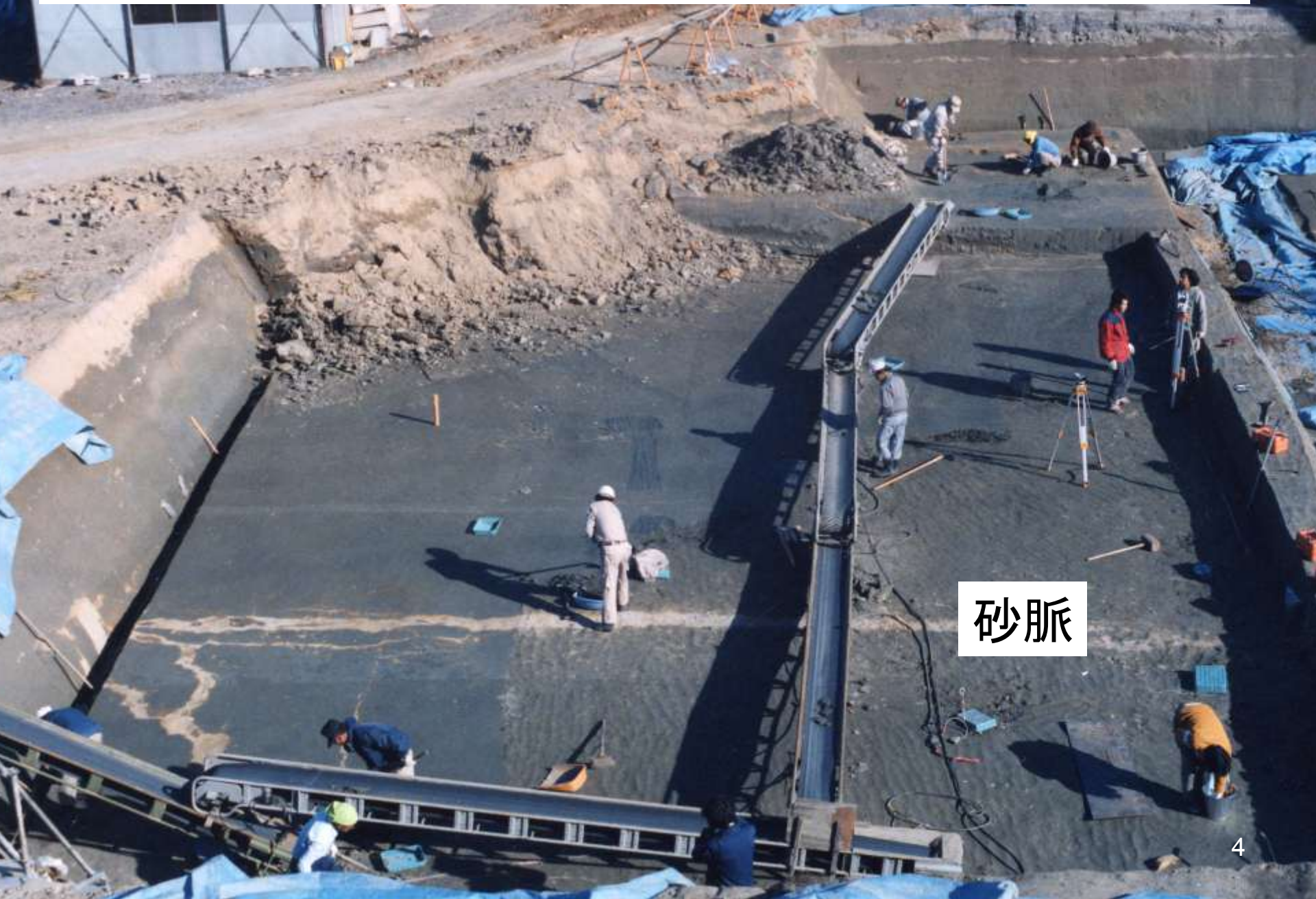


1995年兵庫県南部地震の噴砂



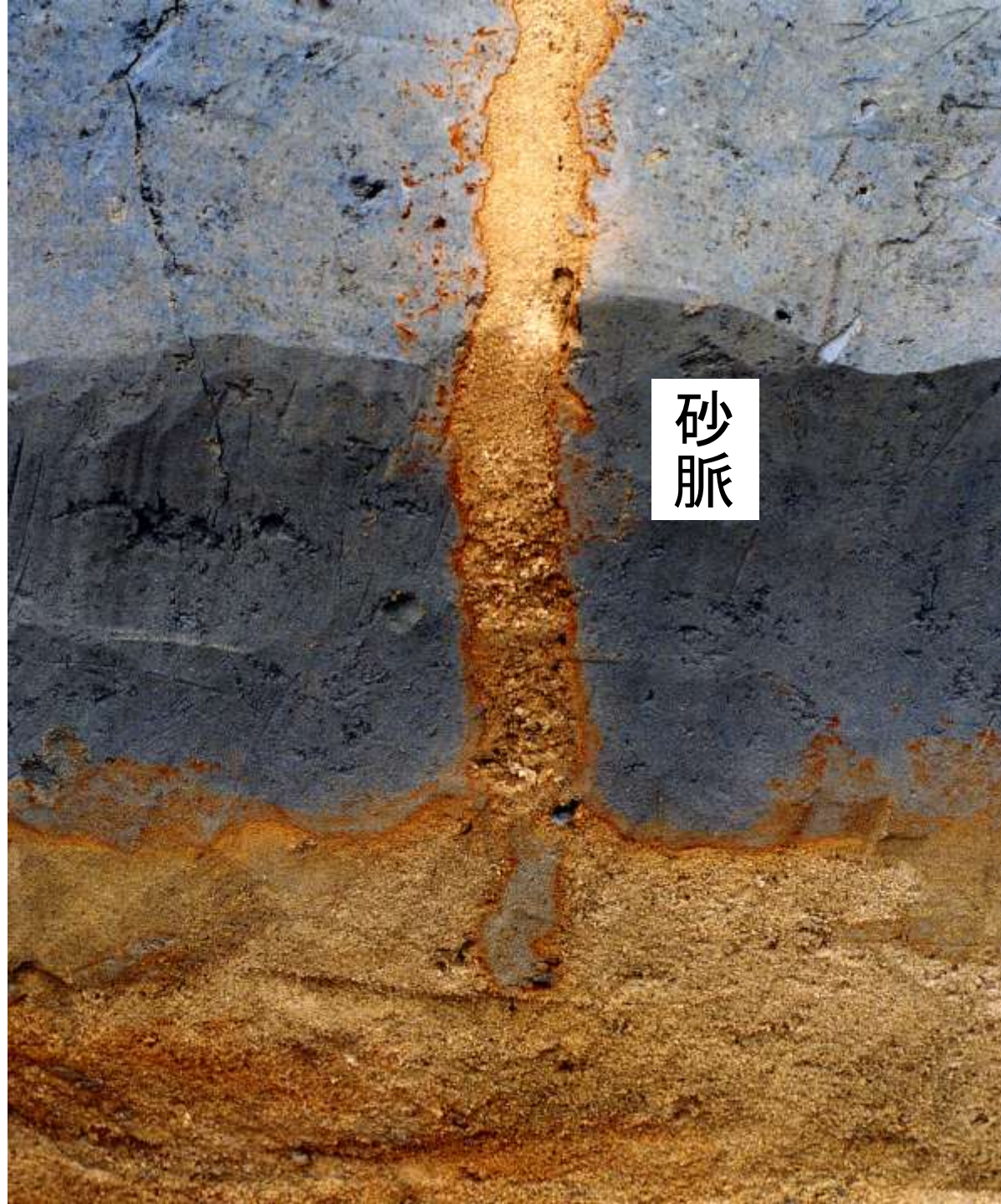
西宮浜北部における噴砂丘の断面図

京都府八幡市木津川河床遺跡の液状化跡



砂脈

木津川河床遺跡の液状化跡

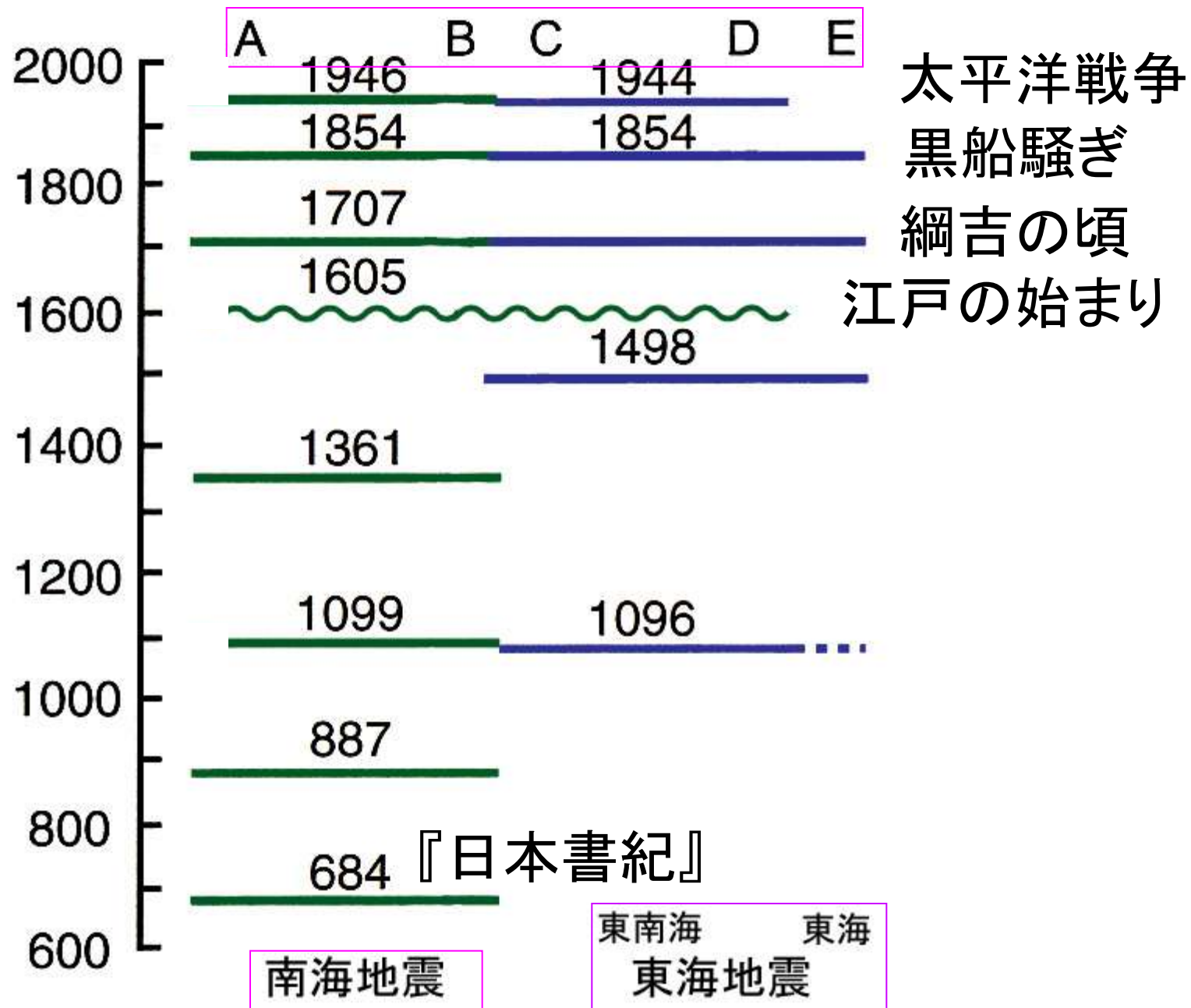


砂脈



地震後の地層
— 地震
地震前の地層

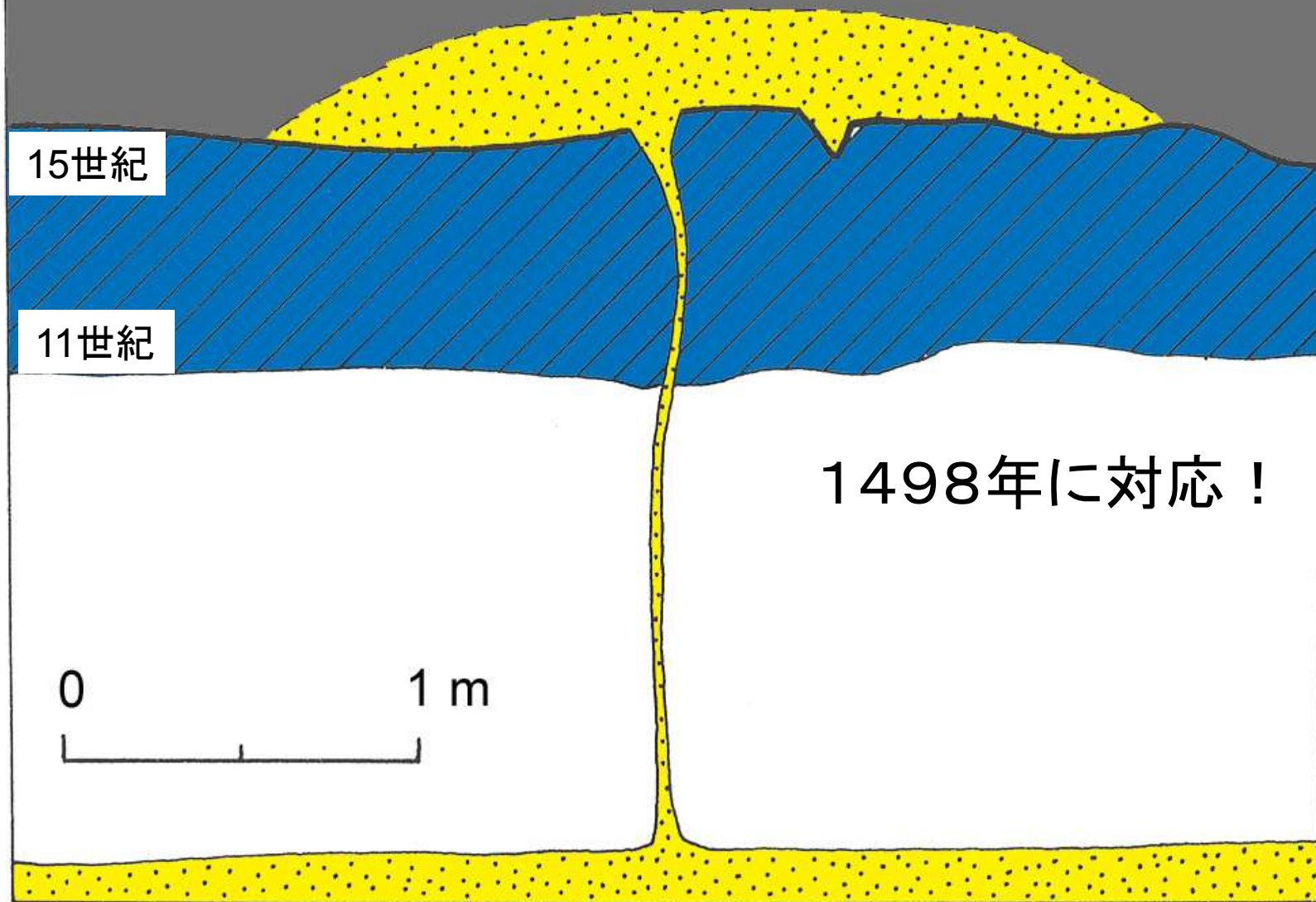
遺跡で地震の年代を絞り込むことができる！



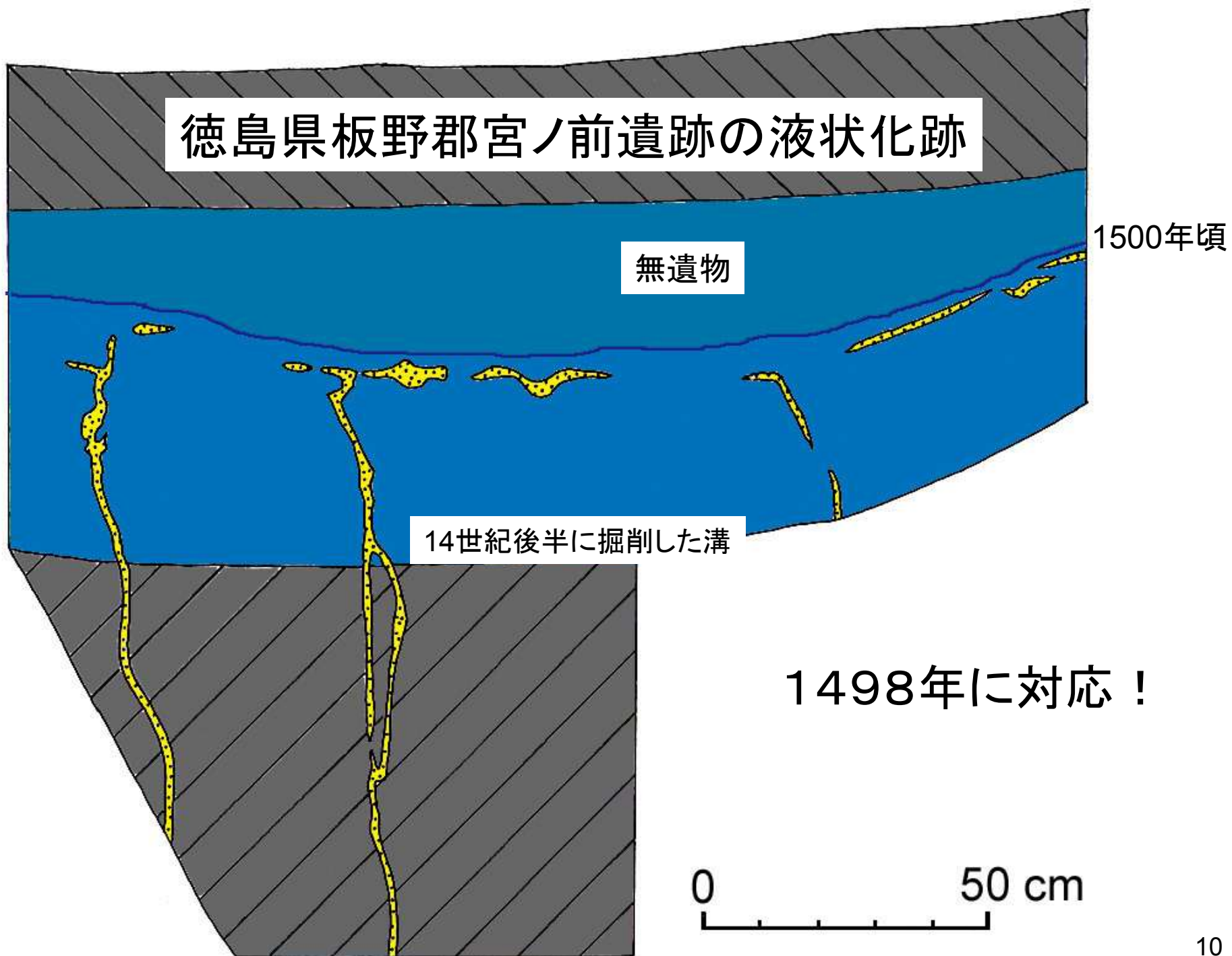
『日本書紀』の天武十三(684)年条

人定(午後十時)に逮りて、大きに地震る。
国挙りて男女叫び唱ひて、不知東西ひぬ。
則ち山崩れ河涌く。諸国の郡の官舎、及び百姓の
倉屋、寺塔神社、破壊れし類、勝て数ふべからず。
是に由りて、人民及び六畜、多に死傷はる。
時に伊豫湯泉、没れて出でず。
土左國の田苑五十余万頃、没れて海と為る。
土左國司言さく、大潮高く騰りて、海水飄蕩ふ。
是に由りて、調運ぶ船、多に放れ失せぬ

高知県四万十市アゾノ遺跡の液状化跡



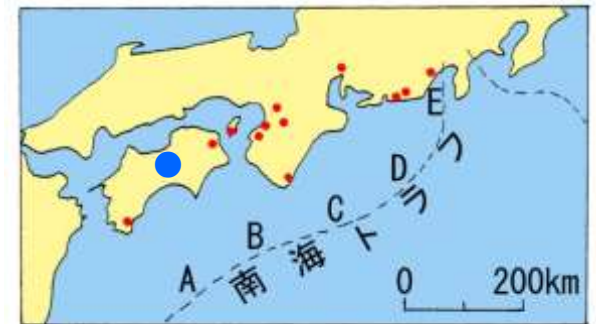
徳島県板野郡宮ノ前遺跡の液状化跡



『新居浜市の黒島神社の文書』 (明治時代の記録)

明応七年(1498年)の震災に、大地大に潰崩し、
島の六七分は流失し、此度二三の遺島となれり

明応七年の震災に罹り、
本殿拝殿共破壊し、住民四方に散乱し



東大阪市瓜生堂遺跡



静岡県袋井市坂尻遺跡の調査風景

静岡県袋井市坂尻遺跡の地震跡

8世紀初頭

7世紀中頃

684年に対応する

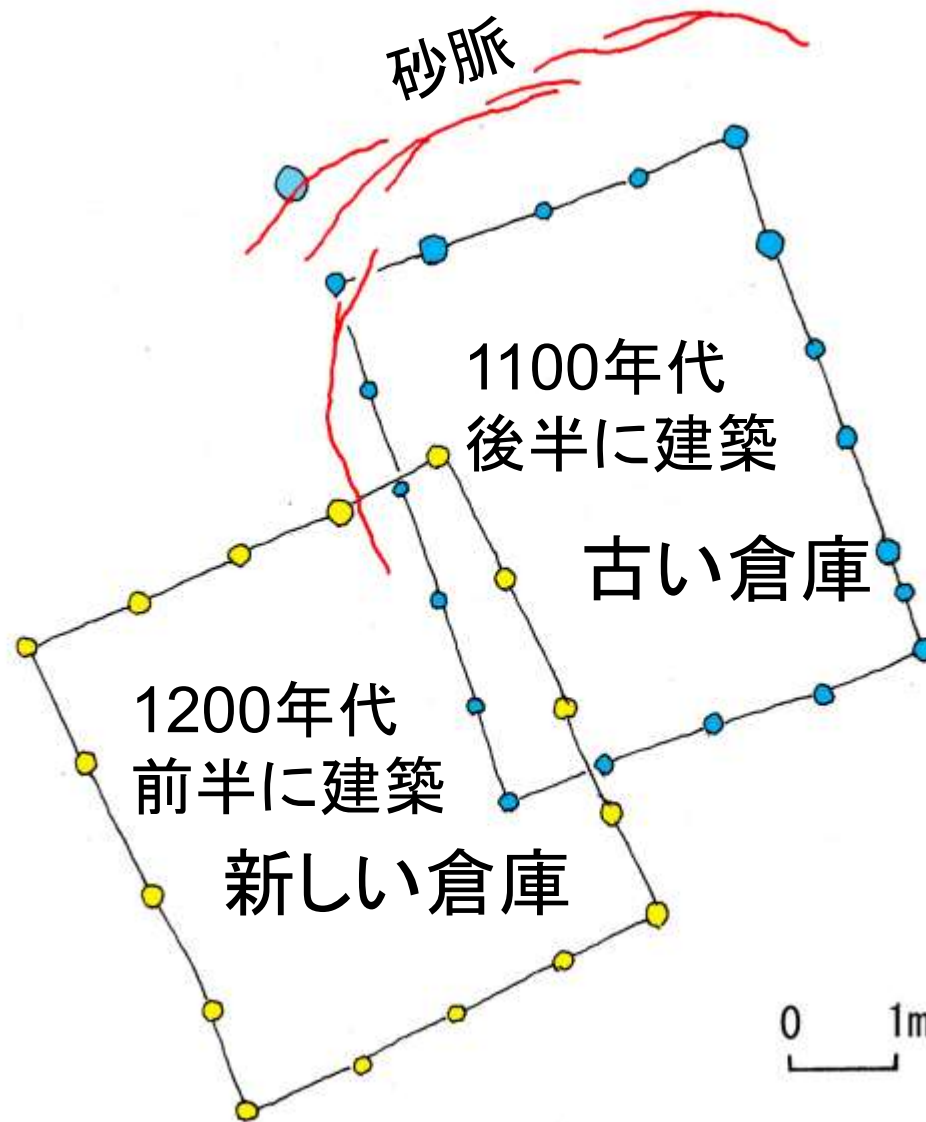
0 30 cm

静岡市川合遺跡の砂脈

684年に対応



和歌山県那智勝浦町川関遺跡の地震跡





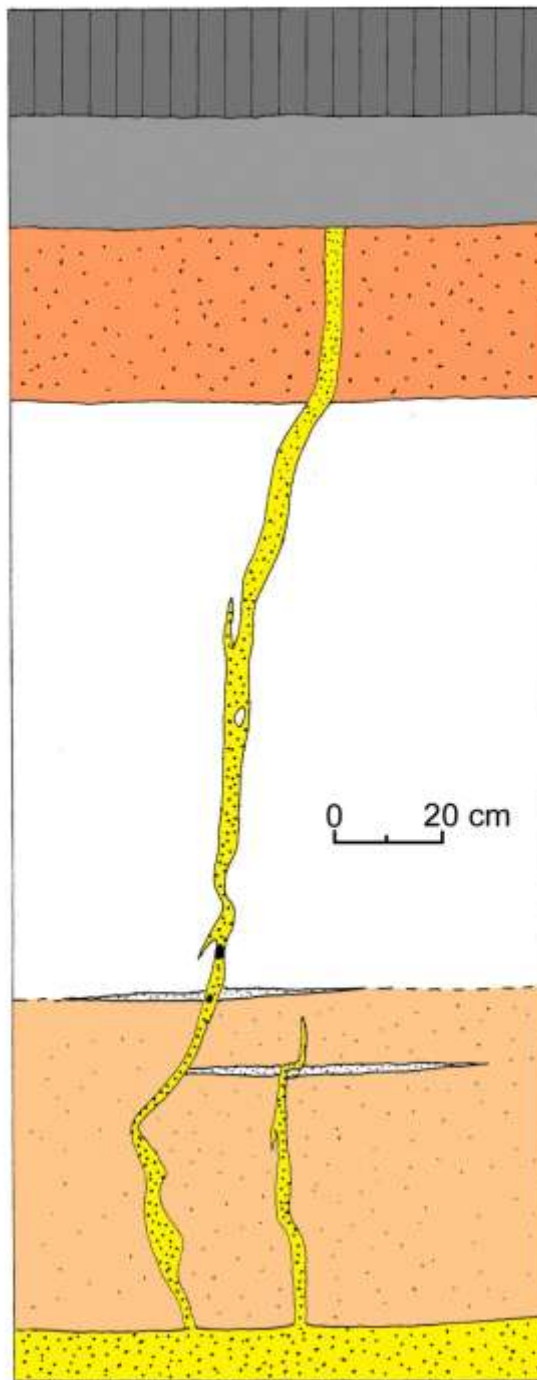
淡路市志筑廃寺の地滑り跡

徳島県板野郡神宅遺跡の液状化跡

明治時代

江戸後期の磁器→

安政南海地震に対応



神戸市教育委員会が発掘調査



明治18年大日本帝国陸地測量部測量 仮製地形図(2万分の1)

1361年8月3日午前4時頃 正平16年6月24日寅刻

『斑鳩嘉元記』

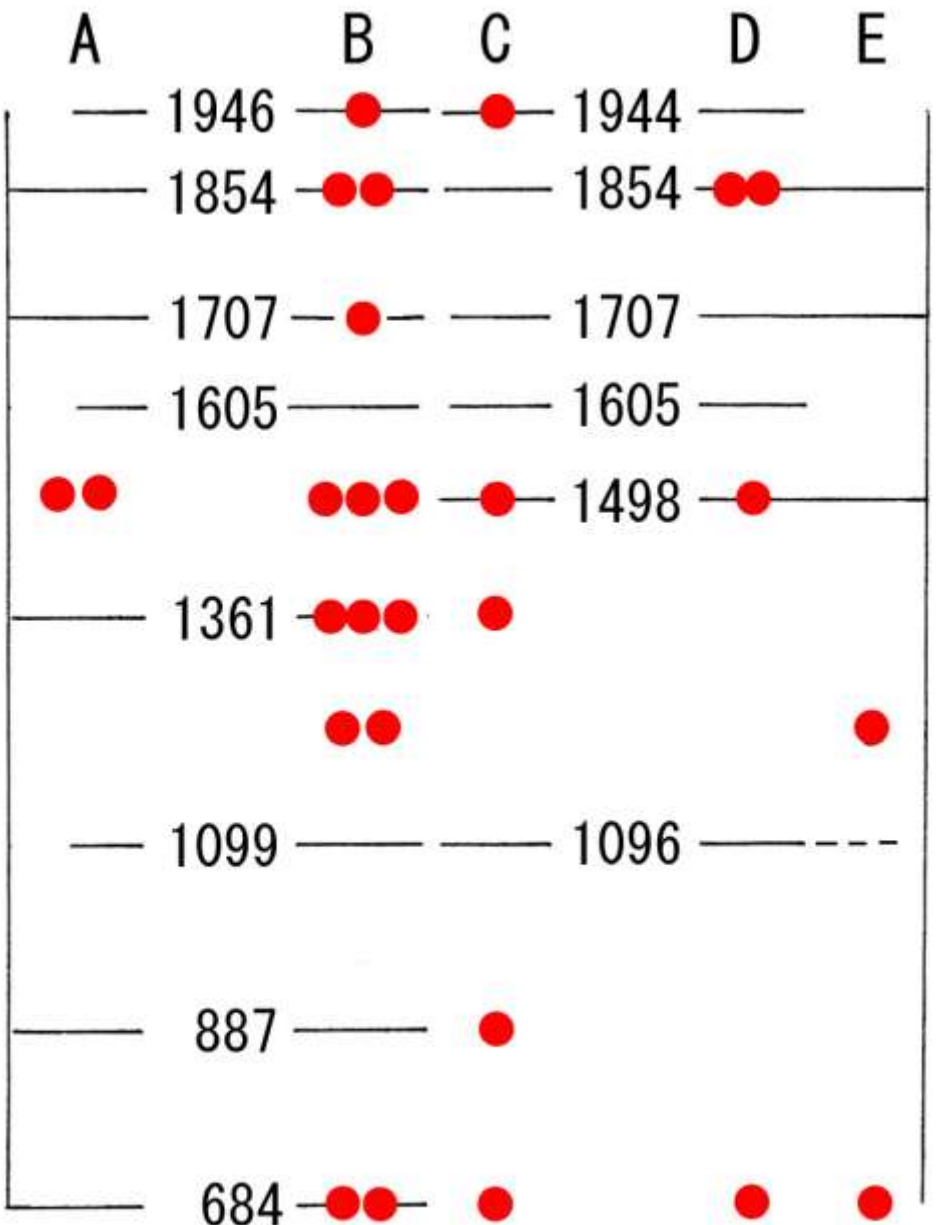
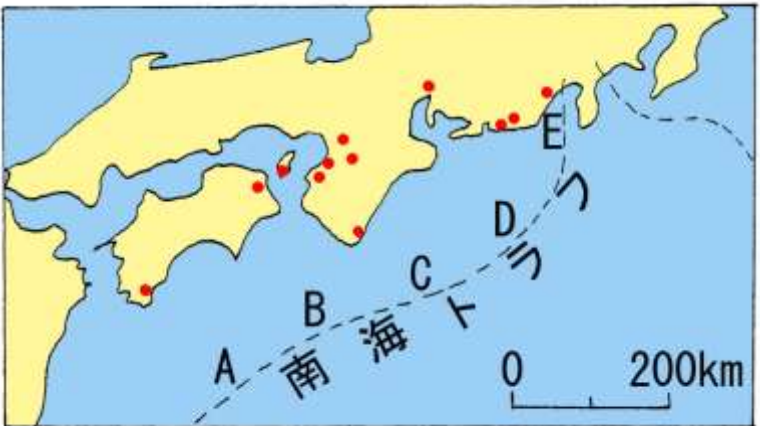
法隆寺の御塔の九輪の上が燃え落ち、
金堂東の間の仏壇の下が燃えて崩れ落ちた。
薬師寺金堂の二階が傾いて破れ
御塔・中門・廻廊が悉く倒れ、西院も顛倒、諸堂破損。
唐招提寺の塔の九輪が大破損、西廻廊は皆顛倒。
天王寺の金堂が倒壊した

『太平記』

阿波の雪の港という浦には、にわかに
大山の如くなる潮みなぎり来て在家一千七百余、
ことごとく引き潮に連れて海底に沈みしかば、
家々に所有の僧俗・男女、牛馬・鶏犬、一つも残らず
底の藻屑と成りにけり
天王寺の金堂ほど崩れたる堂舎はなく、
紀州の山々ほど裂けたる地もなければ



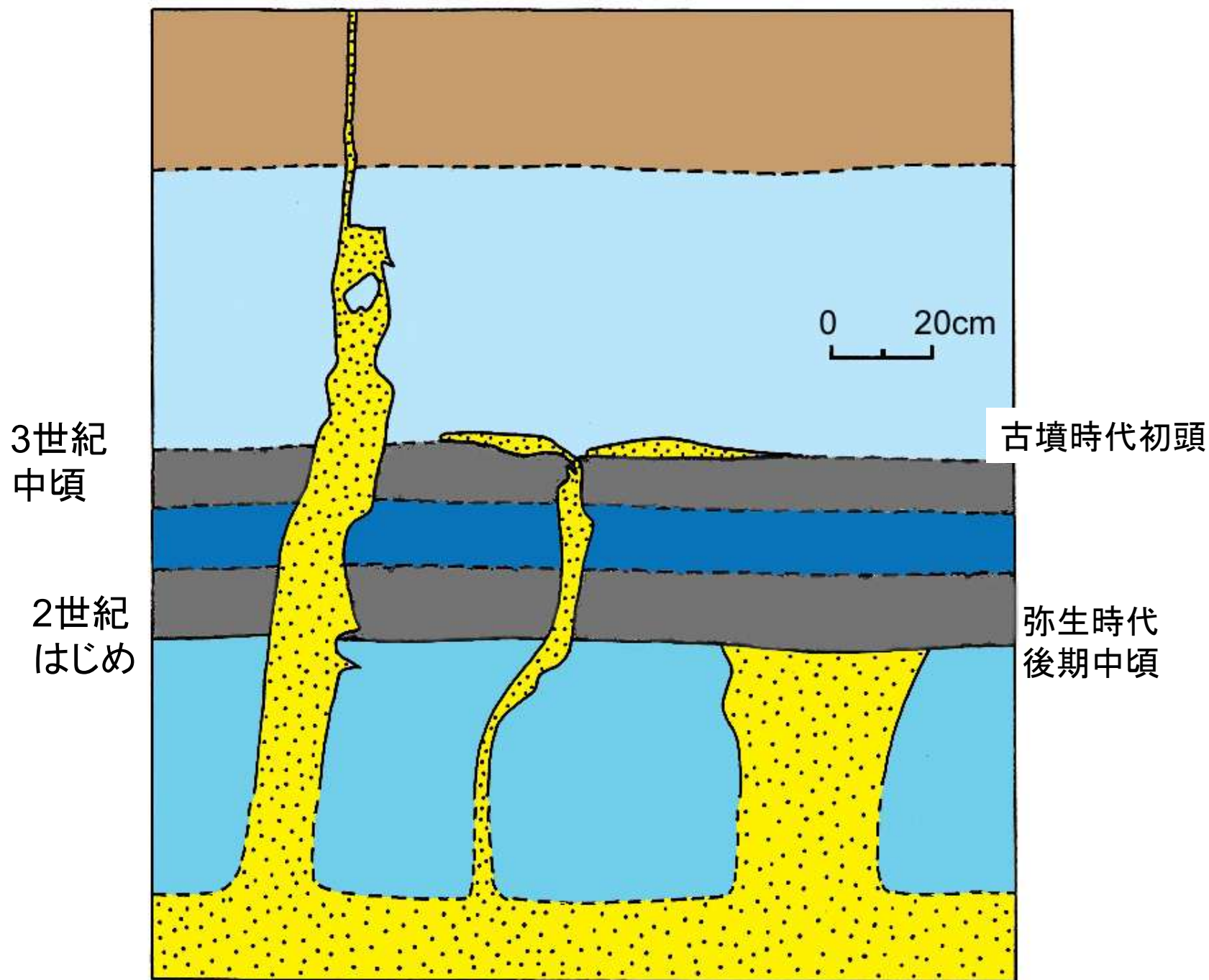
徳島県由岐町(現・美波町)の康暦碑



南海トラフの地震年表

南海地震 東南海地震 東海地震

徳島県板野郡板野町黒谷川宮ノ前遺跡





噴砂を覆う焼土跡



徳島県板野町 黒谷川郡頭遺跡

弥生時代Ⅴ期(後期)
中頃の液状化跡

大阪府堺市の下田遺跡の液状化跡
(古墳時代初頭)

